

提出日：令和 3年 3月 1日
 所 属： 獣医学部 獣医学科
 氏 名： 恩田賢 職位： 教授
 役 職： 附属動物管理センター長

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）				
<p>私は獣医学部の教員として、助手、講師、准教授、そして現在は教授となり 20 年以上、教育と研究を行ってきた。専門とするのは産業動物、とくに乳牛、肉牛、羊や山羊などの反芻動物の内科学と臨床病理学であり、研究のテーマとしてはこれらの動物の代謝性疾患と泌乳生理学を中心に、卒論の指導を行ってきた。また、附属動物病院産業動物診療部における診療を通して、獣医臨床教育も行ってきた。</p>				
科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
動物人間共生論	動物応用科学科	必須	1	140
専門ゼミ	動物応用科学科	必須	3	4
産業動物臨床基礎実習	獣医学科	選択	1	140
獣医畜産管理学	獣医学科	選択	3	100
獣医内科学	獣医学科	必修	4	140
臨床病理	獣医学科	必須	4	140
産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必須	5	140
産業動物臨床実習	獣医学科	必須	5	140
獣医学特論 I	獣医学科	必須	5	5
獣医学特論 II	獣医学科	必須	6	5
卒業論文	獣医学科	必須	6	5
総合獣医学	獣医学科	必須	6	140
2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）				
<p>獣医学科の学生は獣医師免許を取得し、獣医師として社会貢献することが求められている。そのためには、私自身の産業動物臨床獣医師としての経験を生かして、牛の臨床の重要性和面白さ、さらにその難しさも教えてきた。命に値段がつけられている動物達に対する愛情、動物福祉にかなった安全安心な食糧の生産、家畜の特異な代謝生理を活かした飼養管理、最新の診療技術、さらには環境への負荷の少ない家畜生産などに関しても、学生に関心を持ってもらいたい。</p> <p>動物応用科学科の学生には、研究者としての立場から、新しいものを発見する喜びと興奮を伝えていきたい。そのためには、答えが出るように問題を設定し、それを自分で解決できるように指導している。社会に出て、すぐに役立つものは、すぐに役立たなくなるという考えか</p>				

ら、学生時代はたとえ地味でも長く頼りになる、圧倒的な基礎力を身に付けて欲しいと考えている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の理念でも説明したように、答えが出るように問題を設定し、それを自分の力で解決すること、流行りのテクニックではなく、時代の流れが変わっても、常に変化を楽しんで世の中に貢献できる、確実な基礎力を学生時代に身に付けて欲しい。また、臨床学は日々アップデートされる不安定な基礎科学の知識の上に成り立つ学問であり、実践することが必要な技術であることを常に認識する必要がある。そのため、初学年の学生や基礎科目を学ぶ際には、教科書などの成書を読むこと、通読することなども学生に薦めている。配布されるプリントばかりでなく、信頼できる教科書をきちんと読み込んで欲しいので、講義科目では教科書を積極的に使用している。意見が分かれている課題や、答えがあることすら分からない問題に取り組む場合、卒業研究のためになじみの薄い分野の原著論文を読む場合にも、道標としての基礎知識は絶対に必要である。また、試験前に過去の問題や、他の人が作ったまとめのノートで勉強するだけでは、学問は身につかない。教科書や文献を読むには、時間がかかる。学生時代の時間は何より勉強に投資するべきであり、将来のためにも「読む」時間を確保して欲しい。

講義でも実習でも質問されれば答えるが、特に実習では質問されなければ、必要以上に学生に手取り足取り教えることはしない。実習では知識が十分でない学生同士で教えあっても、極端に間違っている場合以外は無理に介入しない。もし分からない、自信がなくて知りたいことがあれば、そのことを解決する積極性を学生にはもって欲しい。

講義や実習の、始まりの時間と終わりの時間は、可能な限り守るように心がけている。終わる時間は少し早くなってしまうことがあっても、始まりの時間が遅れることはない。約束の時間を守るのは他人の時間はもちろん、自分の時間を有効に使うためにも重要であり、最低限の礼儀と考えている。また、私語や内職などの、他の学生の迷惑になる行為は許さない。

アクティブラーニングについての取組

- 臨床実習のラウンド（症例検討会）では、学生に座長と進行を任せ、積極的に、かつ気軽に質問や意見が出やすいようにした。
- 卒論のミーティングや研究室のゼミでも、学生に座長と進行を任せる。
- 講義科目でクイズを出した時には、学生にマイクを渡して、順番に解答してもらう。解答した学生が、次に解答する学生を指名する。

ICTの教育への活用

- 講義や実習でのオンデマンド教材の作成と公開。
- Meet や Zoom による遠隔授業やセミナー。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

※A (十分実施している) B (実施しているが十分でない) C (うまく取り組めていない)

①教育(授業, 実習)の創意工夫 (B)

自分が面白いと思う科学上のトピックを講義の中で説明して、わざと話を脱線する。これによって集中していなかった学生が、再び授業に集中することがある。

②学生の理解度の把握 (C)

講義や実習中に行う小テスト、および定期テスト。課題レポートの評価など。

③学生の自学自習を促すための工夫 (B)

遠隔授業が始まってからは、授業や成績評価の方法だけでなく、講義内容とは直接関係のないチアアップ的な内容の動画もアップロードした(叱咤激励や世間話など)。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等) (B)

メールはもちろんだが、Meetで講義時間中にリアルタイムで質問を受けた。

⑤双方向授業への工夫 (C)

A3 専門ゼミや A4 科学の伝達、研究室のゼミなど、少人数の学生に対する Meet などを用いた講義は比較的うまく出来た。昨年は自分では行っていないが、獣医学科全学生のような大人数に対して、来年度は双方向授業を行っていききたい。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

V6 総合獣医学の準備として、過去の問題の傾向と対策を分析し、講義に反映させた。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

- A) 教材や資料の配布が遅い→遅くても 24 時間前に掲示するように徹底した。
- B) 実習内容と試験問題の内容が一致しない→COVID-19 の影響もあり、今年度は試験を行わなかった。
- C) 臨床実習で経験する動物種を選びたい→少なくとも 2 種類、多い班では 3 種類の動物を体験させた(牛・馬・豚)。

② ①の結果はどうでしたか。

- A) 大部分は 24 時間前に掲示したが、それでも遅いという学生の声があった。
- B) レポート 3 種類と、遠隔教材の視聴とそれに関連する少テスト 4 回で評価を行った。学生からは内容や難易度、教員別の評価にバラツキがあると指摘を受けた。
- C) 実習自体の日数が減って(対面実習は 5 日から 3 日に減少)、物足りない、すぐに終わったという意見が多く、動物種が増えたことに対する高評価は学生から受け取っていない。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

- A) 教材や資料は可能な限り早期にアップロードするよう、努力と工夫をする。全てのレポートは採点后にコメントを記入して、学生に返却する。
- B) 全員に対する試験は行う予定。
- C) 体験動物種を増やすためにも、状況に合わせた対面実習日数を増やす方向で調整する。

<p>6.学生の学修成果</p>
<p>① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。</p> <p>授業や実習内容の改善以外にはないと考えており、その準備をする時間を確保することが当面の懸案。特に Covid-19 に対応した、効果的な遠隔講義の方法や、ICT スキルの向上は、今後も継続的に行っていく。</p> <p>②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価</p> <p>総合獣医学の本試験に落ちた学生の相談にのり、勉強法や心構えをアドバイスしたところ、追試験と獣医師国家試験に合格し感謝された。留年した学生の母親から、学生が私にお世話になっていると母親に話したと、父母会の際に聞いた。</p>
<p>7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)</p> <p>学内の FD 研修会や自主的な教員の勉強会には、可能な限り積極的に参加した。令和元年度版(改訂)獣医学教育モデル・コア・カリキュラムの(2020年6月22日公開)の、①産業動物臨床学、②産業動物臨床学実習、および③総合参加型臨床実習(産業動物)の改定副責任者として情報収集し、他大学の関係教員と意見交換した。また、日本抗加齢医学会認定指導士の資格を得た(認定番号3147・2020年10月18日認定)。</p>
<p>8. 今後の目標(理念の実現に向かう今後のマイルストーン)</p> <p>麻布大学での教員歴も20年を超えたが、経験で補えるところよりも、新しく学ぶことの方が圧倒的に多いことを実感している。Covid-19以降の遠隔教育やICTの利用、開くばかりの年齢ギャップや価値観の解消、知識のアップデートに対応するためには、教員にも教育と研究のために「勉強する」時間が必要である。大学の教員・研究者としてその時間を作るためには、要を得ない会議や無駄な事務処理などをいかに減らすかが、短期的には最も重要と考える。大学での教育では、与える者と受ける者という別々の立場よりも、共に未知のものに取り組むという一体感の方が重要である。教育のための教育だけでなく、研究や臨床のための教育を行っていききたい。</p> <p>V5 産業動物臨床実習(およびV1 産業動物臨床基礎実習)では、動物病院への入院症例数の減少に左右されない、充実した内容と安定感のある参加型臨床実習を行っていききたい。そのためには、大学飼養牛の有効利用や、近隣農場への往診(一次診療)も、視野に入れて検討する。</p> <p>また、授業評価や講義実習中の質問や要望には丁寧に対応し、誤解や説明不足な点は理解されるように説明することを心がける。</p>
<p>9. 添付資料(根拠資料) (※) 資料名のみ</p> <p>Researchmap : https://researchmap.jp/read0006821</p>